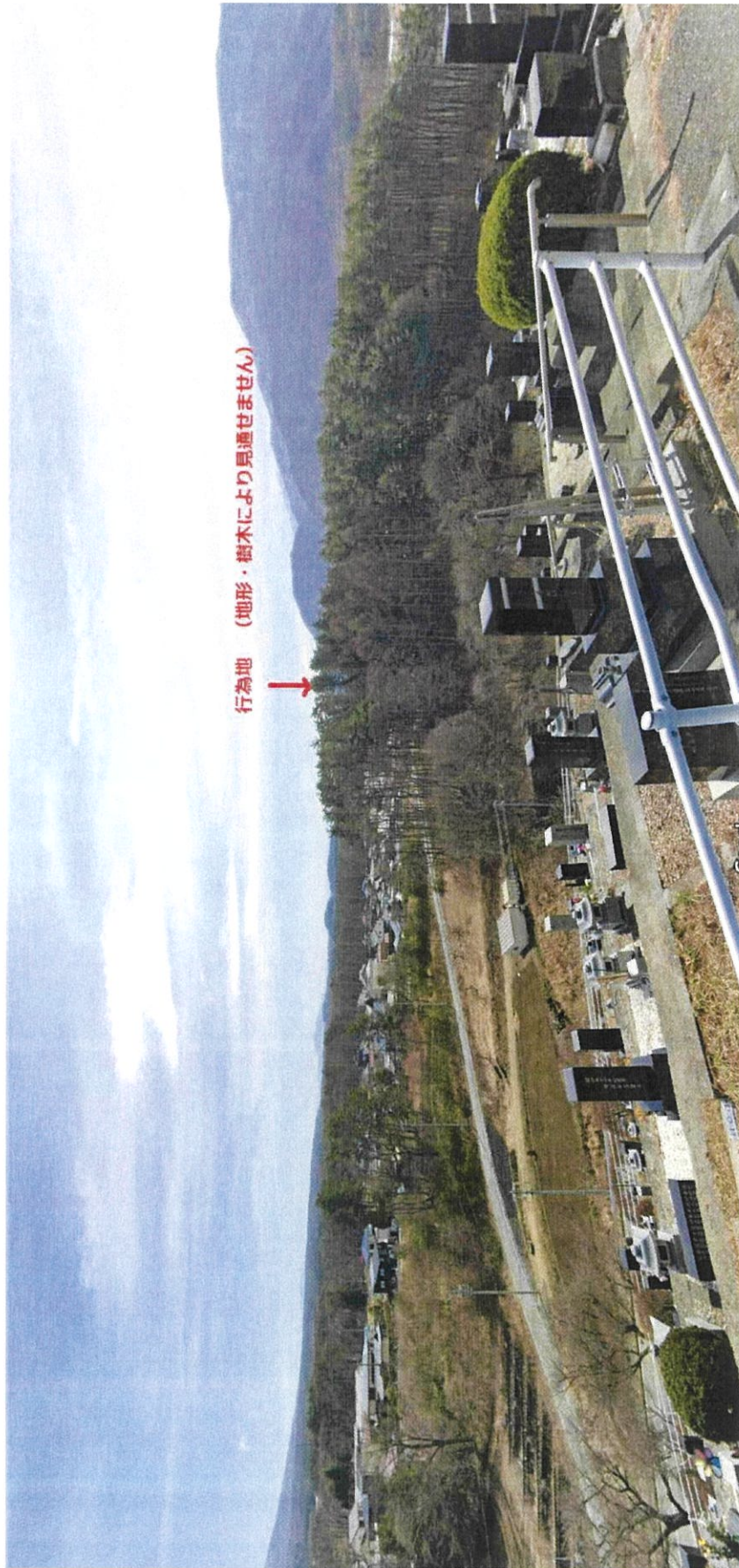


完成予想図 丸山公園墓地 南東



野 県
-5.2.02
収
諏訪建設株式会社

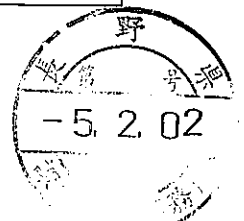
(参考様式第2号)

行為地周辺地区等説明状況報告書

説明者	氏名	株式会社グッドライフ (担当: ██████████)
	住所	長野県岡谷市長地柴宮 2-12-6
説明対象とした範囲 (自治会、地区名等) 及び戸数	瀬沢区	
上記を説明対象とした理由	・行為地が瀬沢区であるため ・富士見町の条例で50mの範囲と指定があったため	
住民説明等の方法	各お宅、公民館、郵送、電話	
実施日時	令和4年3月1日 ~ 令和4年3月15日	
参加又は実施者数 (人もしくは戸数)	25戸	
出された意見及び対応 (欄が不足する場合は別紙により対応してください)		
番号	意見	配慮・見解
1	条例に従い近隣の土地建物所有者には説明を行っていただき、意見には真摯に対応すること。(区長)	ご指導の通り近隣の方々に説明を行い、ご理解をいただくように致します。
2	畑の土として使用したいので土をいただきたい。	承諾いたしました。
3	草の管理をしっかりとやってほしい。	年3回の草刈りを計画している旨お伝えしました。

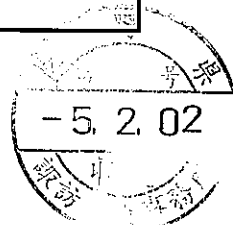
※注1 説明に使用した書類を添付してください。

※注2 説明を複数行った場合は、それぞれ本報告書を作成してください。



太陽光発電施設の設置にあたっての配慮事項

項目		配慮事項	配慮した内容
太陽電池 モジュール	全体	(1) 稜線や斜面上部、高台等、周囲から見通せる場所は極力避ける。やむを得ずそのような場所を選定する場合は、尾根や地形の連続性が損なわれる等の違和感が生じないように、樹木の伐採や土地の掘削を最小限にとどめる。	斜面や高台ではないが、周辺に林地が広がる敷地であるため、土地の形質変更はならし程度の必要最低限にとどめる計画とする。
		(2) 公共的な眺望点からの景観への影響に特に留意し、必要に応じて完成予想図の作成(シミュレーション)等の実施を検討する。	周辺が樹木に覆われているため視認できる場所はかなり限られるが、任意指定された丸山公園墓地からの完成予想図を作成した。
	配置	(1) 敷地が主要な道路や住宅の敷地等に隣接する場合は、太陽電池モジュールを境界から一定距離後退させる。	主要な道路や住宅の敷地に隣接はしないが、境界から最低1m後退する計画とした。
		(2) 施設の規模や地形等に応じて分割する等、大規模な平滑面が連続することを避ける。	敷地内の十分な幅の管理用道路によりパネルアレイを複数に分割した。
	規模	(1) 周辺からの視界をできる限り遮らないよう、施設の高さは極力抑える。	冬季の積雪を勘案し、パネルの最低部分を850mm、最高部分は1,680mmとした。
		(2) 主要な道路や公共的な眺望点から見える場合は、太陽電池モジュールの垂直投影面積を極力抑える。	パネルは10度とする計画で、圧迫感も少ないと考えられる。
	形態・ 意匠	(1) 当該地に応じた架台を選定するとともに、太陽電池モジュールの向きや傾斜をそろえる等、配列に一定の規則性を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・東西へ約3m程傾斜があるため、斜め架台を採用した。 ・角度、向きを揃えて配置した。
		(2) 太陽電池モジュールの傾斜角は、周囲の山並み、建築物の屋根等と極力整合させる。	一般的な建築物は4~5寸勾配が多く、パネルの角度は10度としているため比較的近い角度となっている。
		(3) 太陽電池モジュールの裏面が周辺の道路等から見えにくくする。	パネルは国道側を向いているため裏面は見えない



項目		配慮事項	配慮した内容
太陽電池 モジュール	材料・ 色彩等	(1) 低反射のものを選択するか防眩処理を 施す等、太陽光の反射を低減する対策を 行う。また、素材の結晶が目立たないもの を選択する。	AR コート付きカバーガラス を採用した低反射パネルを採用。
		(2) 黒又は濃紺を基本とし、低明度かつ低彩 度の目立たないものとする。	黒色を選択した。
	フレーム	(1) 低反射の素材を用いる。	アルマイト処理アルミニウム 合金を使用。
		(2) 太陽電池モジュールと同 系色を用いる。	シルバーを選択。
付属設備	(1) フェンス等については、色彩、形態・意 匠に配慮する。	施設の全周にフェンスを設置 する。景観に配慮し茶色を選 択した。	
	(2) 電柱電線類については、極端に増加させ ないよう、低減に努める。	新設は必要最低限の本数とす るよう検討した。	
	(3) 架台、パワーコンディショナー及び変圧 器等の付属設備については、色彩等に配 慮する。	パワコンは白、架台類はシル バー等、景観を害す極端な色 にならないよう検討した。	
敷地の緑化	(1) 植栽計画にあたっては、効果が早期に発 揮できるよう、根巻きを行った苗などの 使用を検討するとともに、植栽間隔や苗 木の大きさに配慮する。	周辺が樹木に囲われており、 道路からも見えない箇所なの で植栽の計画はありません。	
	(2) 樹種の選定にあたっては、外来種及び低 木性の樹種を避け、地域に適した植生と する。	特になし。	
その他	(1) 施設の規模が大きく主要な道路や住宅地 に反射光の影響が懸念される場合は、配置 や向き、傾斜の角度、材料、植栽等の遮へ い措置について検討する。	国道（南東向き）に向けて設 置予定であり計画地の方が地 形が高いのと、周辺が樹木に 囲まれているため、反射光の 影響は少ないと考えられる。	
	(2) 施設及び敷地内は、定期的に保守点検を 行うなど、適切に維持管理を行い、景観の 保守に努める。	30年間の維持管理計画を立 て、それに沿って管理を行う。	

なお、上記以外でも、設置箇所周辺の土地利用状況、周辺景観の状況に応じて、より効果的な配慮方法を工夫してください。

